

整理回収機構 ウェブアクセシビリティガイドライン

2026 年 7 月 15 日

株式会社整理回収機構

目次

ガイドラインの概要

- ガイドラインの目的
- 対象となるホームページ
- 対象となる作成者
- 目標とする適合レベル
- 例外とする範囲

コンテンツの作成方法

原則 1 知覚可能(Perceivable)

- 1.1 非テキストコンテンツ(Text alternatives)
- 1.2 適応可能(Adaptable)
- 1.3 識別可能(Distinguishable)

原則 2 操作可能(Operable)

- 2.1 キーボード操作可能(Keyboard Accessible)
- 2.2 十分な時間を提供(Enough Time)
- 2.3 ナビゲーション可能(Navigable)

原則 3 理解可能(Understandable)

- 3.1 読みやすい(Readable)
- 3.2 予測可能(Predictable)

原則 4 堅牢(Robust)

- 4.1 互換性(Compatible)

参考文献

ガイドラインの概要

ガイドラインの目的

本ガイドラインは、整理回収機構のホームページにおいて高齢者・障害者をはじめすべての人々の利用のしやすさに配慮した情報提供を行うため、ホームページの作成時に留意すべきウェブアクセシビリティ方針を定めて解説したものです。

コンテンツの作成方法については、JIS X 8341-3:2016 および国際規格 WCAG(Web Content Accessibility Guideline)で定められた 4 原則に基づくものです。原則ごとに開発・運用時に確認すべき項目をまとめています。

対象となるホームページ

整理回収機構のホームページ(<https://www.kaisyukikou.co.jp/> ドメインで提供するコンテンツ)のうち、CMS(コンテンツ・マネジメント・システム)で作成し管理するページ。

対象となる作成者

整理回収機構のホームページに掲載するコンテンツの作成者。整理回収機構の職員に限らず、整理回収機構から作成を受注した業者も含めたコンテンツ作成にかかわるすべての者。

目標とする適合レベル

日本工業規格 JIS X 8341-3:2016 のウェブアクセシビリティ適合レベル AA に準拠。

例外とする範囲

- PDF 等の添付ファイル
- 地図情報など外部サービスを利用しているページ
- CMS テンプレート機能を用いずに作成されたページ
- 外国語に翻訳したページ

コンテンツの作成方法

原則 1 知覚可能(Perceivable)

概要

“知覚可能”とは、ウェブ上の情報やユーザーインターフェースが、視覚・聴覚など利用者が知覚できる形で提供されていることを指します。視覚や聴覚に制約のある方だけでなく、音声が出せない環境や小さい画面の利用者にも配慮した設計が求められます。

1.1 非テキストコンテンツ(Text alternatives)

目的:

画像や音声、動画などテキスト以外のコンテンツに対して、テキスト等の代替手段を提供し、支援技術でも内容が理解できるようにする。

主な留意点

複雑な図(表・グラフ・フローチャート等):

短い alt に加え、必要に応じて「図の説明」セクションを用意する。

画像を背景にして情報を伝える場合:

画像ではなくテキストで情報を提供する。画像を使う場合は画像内テキストの意味を代替テキストで説明する。

チェックポイント

- 画像に alt が定義されているか(装飾は空の alt)。
- 複雑図表には本文中に説明があるか。

1.2 適応可能(Adaptable)

目的:

情報や構造が機械的に解釈できる(プログラムの関係性が分かる)ようにする。視覚的な配置だけで意味を伝えない。

主な留意点

セマンティックな HTML を使用:

CMS のテンプレートを使用することで、統一性のある情報整理を行う(例:見出しは h1~h5、リストは ul/ol、表は適切に th と scope を設定)。

チェックポイント

- ページの見出し階層が論理的に構成されているか。
- 主要な情報は機械的に判別可能な要素で提供されているか。

1.3 識別可能(Distinguishable)

目的:

視覚・聴覚情報が識別しやすいこと。テキストの可読性、色の使い方、音声の扱いなどを含む。

主な留意点

カラーに依存しない情報伝達:

色で区別する場合は色以外の表示(アイコン・テキスト)も併用する。

コントラスト比:

本文テキストはコントラスト比 4.5:1 (AA)を確保する。

テキストの画像化を避ける：

情報伝達はテキストを利用し、画像に埋め込まれたテキストは避ける。

チェックポイント

- 主要テキストのコントラスト比は 4.5:1 以上か。
- 情報伝達はテキストを利用しているか(画像化だけしていないか)。

原則 2 操作可能(Operable)

概要

“操作可能”とは、すべてのユーザーがウェブコンテンツや機能进行操作できることを指します。特に、マウスを使えない人やキーボード操作のみで利用する人、視覚・運動に制約のある人が円滑に操作できるよう配慮する必要があります。

2.1 キーボード操作可能(Keyboard Accessible)

目的:

ホームページの機能をキーボード操作で利用できるようにする。

主な留意点

フォーカス移動が可能:

タブキーでリンクやボタン要素を順に移動できること。

フォーカスの視覚表示:

現在フォーカスされている要素が明確に分かるアウトラインやハイライトを付与する。

チェックポイント

- キーボードでページを操作できるか。
- フォーカスの移動順序が論理的であるか。
- フォーカスの位置が常に視覚的に確認できるか。

2.2 十分な時間を提供(Enough Time)

目的:

ユーザーがコンテンツを利用・操作するために十分な時間を確保する。

主な留意点

アニメーションやスライドショーは、ユーザーが一時停止や進行制御できるようにする。

チェックポイント

- スライドや動画の再生を一時停止・再開できるか。

2.3 ナビゲーション可能(Navigable)

目的:

ユーザーがサイトやページの内容を容易に見つけ、移動できるようにする。

主な留意点

見出し・ラベルを明確に:

論理的な見出し構造を作成する。

チェックポイント

- 見出しが論理的かつ一貫しているか。
- サイト全体でナビゲーションの位置と構造が統一されているか。

原則 3 理解可能(Understandable)

概要

“理解可能”とは、ユーザーがウェブコンテンツを簡単に理解でき、操作方法が予測可能であり、入力作業に必要な支援が提供されることを意味します。難解な言葉の使用を避け、インターフェースが直感的に理解できるように設計する必要があります。

3.1 読みやすい(Readable)

目的:

コンテンツをできる限り分かりやすく、誤解なく伝える。

主な留意点

専門用語や略語に配慮:

必要に応じて解説や展開形を提供する。

チェックポイント

- ページ全体の主要言語が正しく指定されているか。
- 専門用語や略語が適切に説明されているか。

3.2 予測可能(Predictable)

目的:

ウェブページの動作が一貫しており、予期しない変化を起こさないようにする。

主な留意点

一貫性のあるナビゲーション:

メニューやリンクの配置を全ページで統一する。

リンクテキストは意味を持たせる:

「こちら」ではなく「利用規約はこちら」のように、リンク先の内容を示す。

チェックポイント

- ページ間でナビゲーションが一貫しているか。
- リンクテキストが文脈なしでも意味を理解できるか。

原則 4. 堅牢(Robust)

概要

“堅牢”とは、ウェブコンテンツが現在および将来のユーザーエージェント(ブラウザ、支援技術等)において正しく解釈され、利用可能であることを意味します。標準に準拠したマークアップや API の利用が求められます。

4.1 互換性(Compatible)

目的:

ユーザーエージェントや支援技術と確実にやり取りできるようにする。

主な留意点

文法的に正しいマークアップを使用する:

W3C のバリデーションを通過する HTML / CSS を心がける。

チェックポイント

- HTML がバリデーションエラーなく正しく記述されているか。

参考文献

- ウェブアクセシビリティ導入ガイドブック(デジタル庁)
- W3C ウェブアクセシビリティ方針策定ガイドライン(ウェブアクセシビリティ基盤委員会)
- WCAG 2.0 公式ガイドライン(W3C)
- WAI-ARIA Authoring Practices Guide(W3C)